

2022 世界史

ズバリ! 的中

同志社大学

入試問題文の空欄補充問題にズバリ的中

入試問題

2月6日実施 学部個別日程
世界史 [Ⅲ]

[Ⅲ] 次の文章を読み、設問1～6に答えなさい。(50点)

積極的な対外膨張政策にのりだした。この結果、イギリスと建艦競争を繰り広げるなど、厳しく対立するようになる。一方、フランスはドイツの進出を警戒し、イギリスとの関係改善にのりだし、1904年英仏協約が誕生した。

ドイツの対外膨張政策はアフリカにもおよんだ。ドイツはすでに (d) などを占領していたが、2度にわたる (e) 事件を起こし、(e) におけるフランスの優越的な地位に挑戦したものの、いずれも失敗した。

ドイツはまた中東への進出姿勢も強めたが、イギリスとロシアはともにこれに対して警戒心をいだき、1907年に英露協約を結んだ。すでに露仏同盟が成立していたので、イギリス・フランス・ロシア陣営が築かれることになった。

第一次世界大戦はオーストリアのセルビアに対する宣戦布告によって開始されたが、まもなく、ドイツ・オーストリア陣営と、イギリス・フランス・ロシア陣営が戦争に突入した。当初、戦争は短期決着と予想されていたが、東部戦線では、1914年8月の (f) でドイツ軍がロシア軍を破ったのち、膠着状態におちいった。西部戦線も同様に、ドイツ軍は中立国ベルギーに侵入してフランスに向かったものの、1914年9月の (g) でフランス軍にいくとめられ塹壕戦となった。その結果、戦争は長期戦となり国民生活全体を巻き込む総力戦となっていった。

1917年2月、連合国側の物資輸入を困難にするため、ドイツは、中立国の商船を含む全船舶を攻撃することを目指す (i) 作戦を開始した。これまでアメリカ合衆国は中立を保っていたが、ドイツのこの行動を直接の理由としてドイツに宣戦し、戦争の趨勢に大きな影響を与えた。

1917年11月、ロシアで革命がおこり、革命政権が翌年3月、ドイツと単独講和条約にふみきり、ポーランドやバルト地方などをドイツに譲る (h) を締結し、ロシアは戦線から離脱した。

1918年11月、(j) 軍港の水兵の反乱をきっかけにドイツ革命がおこり、11月10日、皇帝ヴィルヘルム2世が退位してドイツ共和国が成立し、翌日、連合国と休戦協定が結ばれた。

ドイツ革命によって、ロシアのソヴィエトにならって、各地に労働者・兵士の評議会である (k) が結成された。臨時政府は、議会制民主主義をめざす一方、社会主義革命を目指すスバルタクス団などの左派をおさえた。これに反発したスバルタクス団は1919年1月にベルリンで蜂起するものの、鎮圧された。翌2月に中部ドイツのヴァイマルで開かれた国民議会で (l) が初代大統領に選出され、8月には民主的なヴァイマル憲法が制定され、ヴァイマル共和国が発足した。

河合塾

大学受験科 完成シリーズ
世界史 演習 第18講 3

第18講

③ 第一次世界大戦

【1】 第一次世界大戦の勃発と拡大

1914年6月28日、ボスニアの州都 (1) でオーストリア帝位継承者夫妻がセルビア人青年に暗殺される (1) 事件が起こった。この事件を契機にオーストリアがセルビアに宣戦布告し、ドイツ・オーストリアの同盟国とロシア・フランスなどの連合国 (協商国) が戦う第一次世界大戦がはじまった。西部戦線ではドイツ軍が (2) の中立を侵犯し、パリを一気に占領しようとして北フランスに進撃したが、(3) の戦いでフランス軍に阻止され、短期決戦の構想は崩れた。これ以後、西部戦線は膠着して塹壕戦に移行した。

一方、東部戦線ではヒンデンブルク率いるドイツ軍がロシア軍を1914年8月に (4) の戦いで破り、ロシア領内に深く攻め込んだが、ここでも決定的な勝利はえられなかった。海軍力で優位に立つイギリス・フランスは海上封鎖を実行し、植民地とドイツとの物資の補給を妨害したため、ドイツは海外から原料・食糧を輸入することができなかった。この苦境を打開するため、1916年にドイツ軍は (5) の戦いで大攻勢をかけたが失敗し、また連合国軍も (6) の戦いで大攻勢をかけたが失敗した。この間、1915年には中立を守っていた (7) が三国同盟を破棄し、連合国側に立って参戦した。東アジアでは、(8) 同盟を理由に参戦した日本が、ドイツの租借地である膠州湾を占領し、山東省におけるドイツ利権の譲渡などの (9) 要求を中華民国におしつけ、利権の拡大をはかった。

第一次世界大戦は従来の戦争に比べて大量の兵力や莫大な武器・弾薬が戦場に投入された。このために交戦国は、女性や植民地の住民を動員する (10) の体制を構築することとなった。また航空機・戦車・毒ガスなどの新兵器も使われ、死傷者数は飛躍的に増大した。こうして戦争が長期化するなかで、連合国・同盟国とも活発な秘密外交を展開した。なかでもイギリスは、多くの秘密外交を展開した。西アジアでは、アラブ人の独立を約束する (11) 協定 (1915)、イギリス・フランス・ロシアの3国で戦後のオスマン帝国領の扱いを定めたサイクス・ピコ協定 (1916)、ユダヤ人のパレスチナ復帰運動 (シオニズム) を援助することを約束した (12) 宣言 (1917)、また、インドには戦後の自治を約束 (1917) して、戦争協力をとりつけた。さらに、各国ではより強力な戦争指導体制の構築を迫られ、挙国一致体制が成立した。イギリスでは、1916年に (13) 内閣、フランスでは1917年に (14) 内閣が成立した。

【2】 第一次世界大戦の終結とドイツ革命

1917年2月にドイツは、英仏の海上封鎖に対抗して (1) 作戦を宣言したが、これを契機にアメリカ合衆国が連合国側で参戦することになった。またこの年にロシア革命が勃発し、新たに成立したソヴィエト政権は、1918年にドイツ側と (2) 条約を締結して戦線から離脱した。その後、ドイツ軍は西部戦線に大攻勢をかけたが失敗し、連合軍の反撃が本格化した。秋にはブルガリア・オスマン帝国が降伏し、オーストリアも休戦協定を結んだ。残されたドイツでも1918年11月初め、(3) 軍港での水兵暴動を契機にドイツ革命が起きた。皇帝 (4) は亡命し、共和国が宣言されて、各地に労働者や兵士の評議会である (5) が設立された。そして首都ベルリンでは、(6) 党を中心とする臨時政府が生まれた。臨時政府は、11月11日に連合国と休戦協定を結び、第一次世界大戦は終結した。

一方、臨時政府は革命の急進化をおさえ、秩序の回復につとめた。これに反発した左派の (7) 団を中心に結成された共産党が、1919年1月に武装蜂起したが、臨時政府はこれを軍部や保守派の力をかりて鎮圧し、指導者の (8) やローザ・ルクセンブルクは殺害された。そして、翌2月の (9) 共和国の成立で革命は終わった。